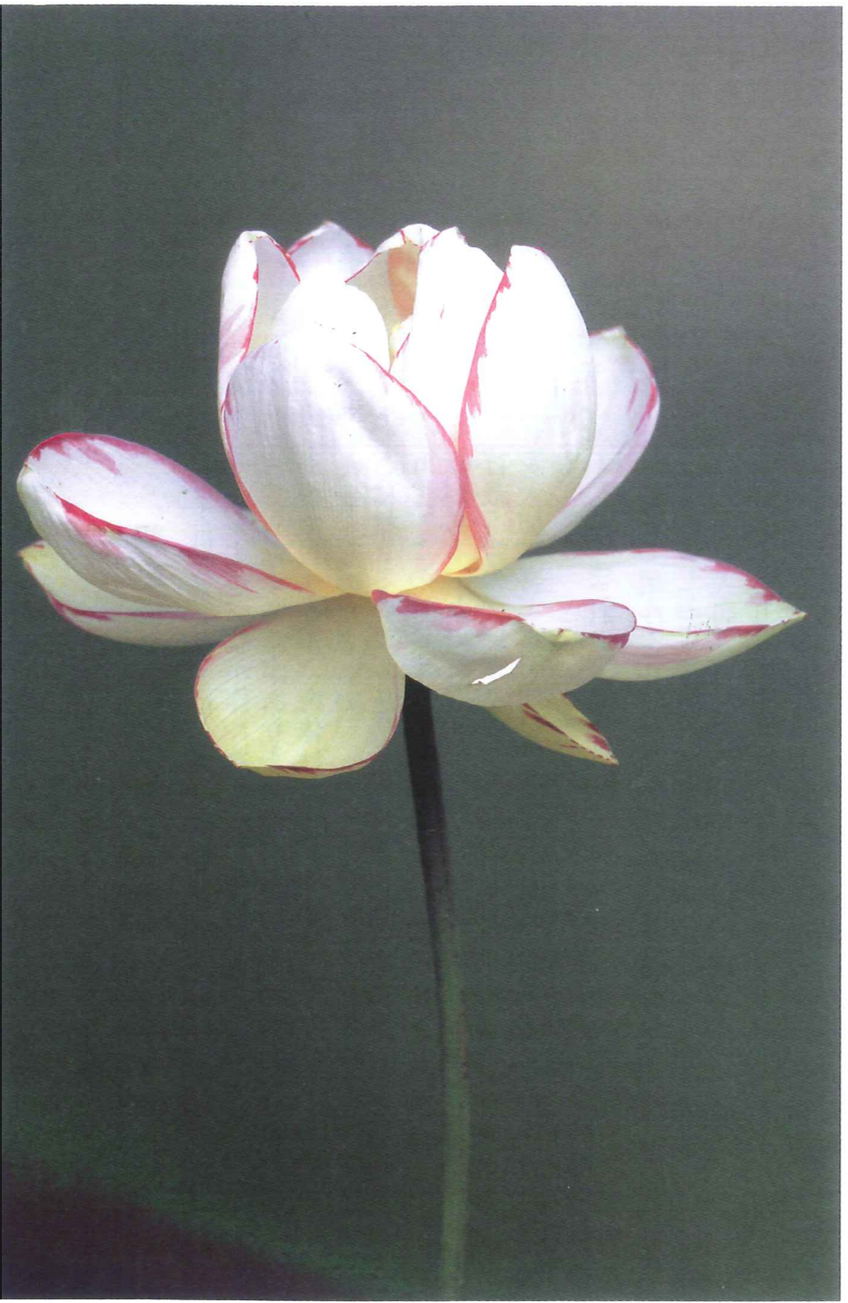
浄土真宗
瑞林寺
坂井輪
墓苑だより

无量寿

（親鸞聖人御真筆）

第44号
平成21年8月1日
発行人
〒951-8133
新潟市中央区川岸町1丁目48
（相沢企業内）
坂井輪墓苑管理事務所
TEL 025-267-9402



そっと
どうにもならんことは
そっと
そのままにしておく

榎本栄一
詩集
「群生海」
より

〈写真提供〉
鈴木薫著
「蓮花」鈴木薫写真集
発行　株式会社ラトルズ

お盆のご案内

※ローソク・線香は墓苑にて常備しております。

お花の予約

八月十三日、お花の用意をしております。
なるべく予約でお求め下さい。
予約電話番号
平日　二六七―九四〇二
当日　二六〇―五二四九

墓前読経

十三日のみ承ります。
午前八時半より午後六時まで

年間管理料の納入方法が変わります。
詳しくは別紙ご案内書にてご確認下さい。

瑞林寺の案内

どなたも自由に参加下さい。

朝のおつとめ

―おあさじまいり―
朝六時梵鐘から本堂のおつとめ〝おあさじ〟が始まります。

お経の心を学びませんか

●正信偈に学ぶ会
毎月二十八日　一時三〇分～
●歎異抄に聞く会
毎月第三火曜日　二時より
●青壮年の会
仏教の基礎の勉強
毎月第二火曜日　夜七時より
●お経のけい古
毎月第三水曜日　夜七時より

大人と子供のお楽しみ

○ゴスペルコーラス
毎月第二・第四水曜日　夜七時
○寺子屋習字教室
金曜日　月三回　四時～六時
○日曜学校
日曜日　朝八時三〇より
○少年サッカークラブ
エスタクラFC
毎週水・土・日曜日　於坂井輪小

あとがき

◇梅雨明けのおそい夏、集中豪雨が襲って各地に被害の痛ましさが報じられるなか、今年のお盆を迎えます。
◇お盆とは梵語（インドの古い言葉）のウッランバナ盂蘭盆だそうです。倒懸とう意味で、逆ずりになったようなひどい苦しみとも、また救済という意味もあるそうです。
◇盂蘭盆経というお経があります。お釈迦様のお弟子の目蓮尊者が、夏の修行期間（夏安居）を終えた日、七月十五日に亡き母を餓鬼道から救うため供養を捧げたことに始まるといわれます。
◇ウラ盆というとオモテ・ウラの裏と思いますが、これはまちがいで、オモテ盆はありません。
◇中元ということも七月十五日、半年生存の無事を祝い、うら盆の行事をし供養することに由来します。
◇お中元の習しも、旧来新潟ではお盆礼が一般的でした。東京だけが七月十五日にお盆をつとめ中元の礼を行ってます。東京以外は全国各地とも月おくれの八月のお盆です。
◇東京のデパートなどの商戦が盛んとなり、お中元とお盆礼がごっちゃになって今の習慣となりました。

いのちは私のものではない

瑞林寺前住職　廣澤憲隆

脳死や臓器移植、世界一の長寿社会と老人問題、医療や介護、年金・医療費はては抗老化の不老長寿の研究など、人間のいのちにかかわる政治、経済、科学技術などの問題がますます深刻さをましています。お釈迦様の説かれる「人間であることの苦しみ」四苦八苦の四苦「生老病死」が正面に問われる時代を迎えています。

世の中の流れも、地位名誉・富権力の上昇願望から豊かさ・快適・快楽へと移り変わった戦後の時代が、二一世紀に入ったとたんバブルがはじけて成長拡大・大量生産大量消費の文字が、エコや安全の文字に変わる、にっちもさっちもいかない世の中になりました。

生苦 ― 誕生はなぜ苦しみか ―

四苦の第一は生苦といわれます。なぜならこの世に生を受けたところに苦が始まるからです。

私は、私の意志と関係なく生まれ、現に今生存しております。その意味で誕生はまったくの偶然といってよいでしょう。なぜこの私はこの世に生まれてきたのでしょう。「生は偶然、死は必然」の人生。そこにこの世に生まれた意味を明らかにせねばならない人間のもつ課題と運命性があります。

親を借りて私は生まれた

「子供を造る」ということがあたりまえの言葉になっていますが、親が作ったといえば造り方が悪いといわれても返す言葉がありません。では私は父母から始まるのでしょうか。肉体は確かに両親からいただきましたが、私のたましい、一個の人間としての私自身はどこに始まるのでしょう。私は私として親を縁として（借りて）この世に生まれた、そこに一人の人間としての尊厳がある、というのが仏の教えです。その意味では親子は最も縁の深い他人といえるでしょう。この「親子の縁」を大切に喜ぶことが自分を最も大切にすることです。

生まれたから死ぬ

老いて病んで死ぬ「老病死」は自然の摂理です。この苦しみを克服する努力が医療技術の進歩です。しかし人間は有限です。はてしない欲望の追求はこれからも限りなく進むでしょうが、その「ツケ」は必ず背負わなければなりません。その矛盾が国の財政破綻や地球環境にまで及んでいるのが今日の世界の危機状況です。

肉体の命はもちろん大切ですが、死にたくない、どこまでも生きたい願望に答えはありません。

死んでも命がありますように祈る「魂のいのち」が欲求する永遠のいのちこそ無量寿如来、阿弥陀さまです。死んでも死なない「阿弥陀のいのち」を獲得しなくては本当の死の解決はありません。ここに仏法の教えがあります。生のみが私ではない、死もまた私です。

聖典を読む

親鸞聖人の正信偈のこころ (6)

本願名号正定業
至心信楽願為因
成等覚証大涅槃
必至滅度願成就

〈よみかた〉
本願の名号は正定の業なり。
至心信楽の願を因となす。
等覚を成り、大涅槃を証する
ことは、必至滅度の願成就なり

〈意　味〉
本願の名号である南無阿弥陀仏こそ、だれもが浄土へ往生できる道であり、それを称え信ずるところに救いは完成します。

その信を得た心は仏に等しく、未来に必ず大涅槃の世界に生まれ仏に成る身と決定します。すべてこれは如来の大悲の誓願の力によるものです。

救いはお念仏ひとつ

阿弥陀さまとはどんな者をも、それは善人悪人・老若男女・貧富貴賤・能力の優劣・過去の罪業の軽重を問わず一切区別なく、その人の歩んだ人生を仏として完成させてあげたい。これが阿弥陀の心であり、阿弥陀さま全体です。

人間のかかえる、これらの一切の条件を許して、生の人間そのものをすべて仏として導き完成する手だて、方法として最後に選びられたのが、みずから「南無阿弥陀仏」の六字の名となって「我が名を称えよ。称えるものを必ず救わずにはおかない」と誓われたのです。

一切の人の救い、平等で無条件の救い、それは称えやすく、保ちやすい「だれでもできる」方法でなければなりません。そこに名をもって〝だれでも〟〝いつでも〟〝どこでも〟できる道・方法として「ただお念仏ひとつ」と称える称名念仏を唯一の正しい方法だと今勧めてくださっておられます。

安心と希望の信心と浄土

人間の一生は妄念妄想の煩悩人生、勝った負けた、損だ得だ、不安心配のなかで淋しく終わる。ピンピンコロリしか望めぬ「時間待ち」の人生。悲しみ苦しみの重い荷物を背負って、トボトボと行き暗く閉ざされていても、どうなるかわからない旅路をいやでも歩みつづけなければならない長寿社会です。

たとえ生活が保証される安心社会が実現しても生老病死はだれもまぬがれません。煩悩は減るどころか増えるばかり。

阿弥陀さまはあなたがどんな「生きざま」をし「野たれ死に」して世間から見捨てられようと「私はあなたから一瞬も目を離さず、あなたと苦楽を共にして護り、新しい世界にあなたを新しく仏として誕生させずにはおかない」との誓いが南無阿弥陀仏の六字の御名にこめられています。

お念仏申すとき、阿弥陀さまの大慈悲の胸ふところにしっかり抱き取られた大安心の世界です。